

市民公開セミナー

中心市街地とはどのような場所か —— 「住まい」と「商い」から考える

日時：11月18日（日）18時～21時

場所：松本市大手公民館／2階大会議室

聴講無料・予約不要

いま、都市の〈中心〉のあり方が根底から見直されようとしている。

都市の中心といえば、高層のビルやマンションが建ちならび、商店街が賑わう場所であるという意識が根強くある。しかし、こうした風景は、都市の長い歴史からみれば、ごく最近になって発明された「舞台装置」にすぎない。そして現在、このような舞台から、居住者、買物客、観光客など、多くの踊り手が退場しつつあるのが現実である。

考えてみれば、戦後数十年、私たちは都市という舞台をあまりにも急いで仕立てすぎたのではないか。そして、踊り手が去りつつあるいま、都市の〈中心〉とはどのような場所か、そこでどのように住まい、どのように商いを営んでいくのか、冷静に考えるときに来ているのではないか。そうした問題意識から、今回、「住まい」と「商い」を研究する一線級の社会学者をお招きし、松本の中心市街地の今後を展望してみたい。

▼セミナープログラム

1. 講演「住まいの開き方」(60分)

祐成 保志 氏（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

2. 講演「商店街は『まちづくり』に必要なのか？」(60分)

新 雅史 氏（学習院大学大学院政治学研究科非常勤講師）

3. 対談「『住まい』と『商い』から考える中心市街地」(40分)

祐成 保志 氏 + 新 雅史 氏

聞き手：武者 忠彦（信州大学経済学部准教授）

※裏面に講師プロフィール / 大手公民館地図

■講師プロフィール

祐成 保志（すけなり やすし）

▼略歴

2005年5月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了

2007年4月 信州大学人文学部准教授

2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

▼著書

『〈住宅〉の歴史社会学：日常生活をめぐる啓蒙・動員・産業化』新曜社（2008年）ほか

専門はコミュニティと住まいの社会学。コミュニティは社会学のなかでも伝統ある研究対象の一つであるが、従来は地域社会とそこで活動する集団に焦点をあてた研究が中心であった。現在、コミュニティをめぐるのは、地理的な近接性や境界線の意味が問い直される一方、心身の安全を保障する居場所の必要性が論じられる。こうした状況を踏まえながら、社会調査史の把握と経験的調査の実践を通じて、コミュニティ研究の方法を再構成することを目指している。「住まい」（ハウジング／ホーム）という場への着目は、その際に有力な手がかりとなると考えている。

【東京大学HPより】

新 雅史（あらた まさふみ）

▼略歴

1973年 福岡生まれ。

学習院大学大学院政治学研究科非常勤講師。

東京大学人文社会系研究科博士課程（社会学）単位取得退学。

▼著書

『商店街はなぜ滅びるのか——社会・政治・経済史から探る再生の道』（光文社新書）

商店街はまったく伝統的な存在ではない。現存する多くの商店街は20世紀になって人為的に創られたものだからである。（本文より）

【光文社HPより】

大手公民館地図

